

令和元年度 研修旅行記

本年度の研修旅行および新入会員歓迎会は、10月29日、新入会員4名を含む36名の参加と関西電力滋賀支社のご協力を得て、安全対策と廃炉工事の進む関西電力美浜発電所を見学しました。

小雨と通勤ラッシュの中、いつもながら栗東 IC までは時間がかかり、早いバイパスの完成が望まれます。

バスの中では我が国のエネルギー事情、原子力発電所の安全対策、高レベル放射性廃棄物最終処分、CO2 排出低減などの課題についてビデオを交えて説明を受けました。

東日本大震災以降、原子力発電代替の火力発電の焚き増し燃料費が7兆円増え、電気料金が25%高くなったり、再生エネルギーの太陽光発電普及のための単価差を補う賦課金が一戸当たり年間9000円になったり、近年、経験したことのないような自然災害が頻発し、停電で電気がなければ何も動かない、何もできないことを実感しています。

我が国のエネルギー自給率が19%しかないことを聞き、電気がなければ生活も産業も成り立たないし、温暖化防止の取組みもますます必要となってきたおりエネルギー供給の難しさ、供給源のベストミックスを考えさせられました。

美浜発電所 PR 館ではテロ対策の一環の本人確認を受けながら、原子力発電の仕組み、福島第一発電所の事故を踏まえ、新規制基準に沿った安全対策の取組みの説明を受けました。現場の見学は、バーチャルリアリティスコープ (VR) のゴーグルを受け取りバスに乗って入構し、VR を通してそこに居るかのように説明を聞きました。

構内は、安全対策工事と廃炉工事が輻輳しているため、構内を回っての津波対策の防潮堤、防火帯などは見られませんでした。敷地の外周部も防潮堤が築かれ要塞化していました。

その後、PR 館に戻っての質疑応答には原子力のしくみ、コスト、将来計画などの質問がどんどん出て皆さんの真剣さがよく分かりました。

予定より随分遅れましたが、昼食の千鳥苑へ向かい海鮮バイキングを堪能しました。車中、千鳥苑の車内販売の斡旋に協力してもらったお陰で、千鳥苑からビール、冷酒、お土産のサービスを受けました。

食後は2時10分になり、5時を過ぎると通勤ラッシュに遭うことを避けるため氣比神社の参拝を止め、日本海さかな街でお土産を仕込んで帰ることにしました。

車中ではビンゴゲームを楽しみながら、野洲駅に 17 時、守山駅に 17 時 30 分予定どおり帰着できました。

東電、福島原子力発電所の大事故以来、原子力に対するアレルギーはまだまだ払拭できていません。滋賀県の一部も大飯・美浜発電所の **30km** 圏内にあり、再稼働や安全に対する関心は高く、今回、新規制基準の安全対策工事が進む美浜発電所を自分の目で直接見ることで原子力発電への理解が少しは進んだのではないかと思います。研修中心の研修旅行でした。